

昭和63年度技術開発実施報告書

様式 2

課題	広葉樹天然林の人工補整施業法	継続・新規別	継続	担当課	造林課	開発箇所	高岡	期間	昭和60年度 ～ 昭和62年度		
		経常・特別別	経常								
		指示・自主別	自主								
全体計画		実施報告		昭和63年度実施計画		評価および普及計画					
		昭和62年度までの実施経過を記入のこと		昭和63年度実施結果を記入のこと							
<p>広葉樹優良林分を造成するため、人工補整法の技術と投資効果を究明する。</p>		<p>昭和60年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 試験地設定 2. 調査事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 仕立本数と生長量調査 <p>昭和61年度以降</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 調査事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 仕立本数と生長量調査 (2) 仕立本数と形質調査 (3) 芽かきと保育体系の調査 		<p>1. 調査事項</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 生長量調査 <p>別紙(様式4)のとおり</p>						<p>早期に仕立本数を調整すると、風による倒木が発生する。 (株の芽立ちのときに3で裂ける) 林内を疎用(除向枝)する時期の検討が必要であり、早期に疎用しないほうが良い。</p>	

(様式4) ~ /

課題

広葉樹天然林の人工補整施業法

1. はじめに

天然生広葉樹林を人工補整林へ誘導するための人工補整の方法と投資効果を究明して施業体系を確立することを目的として試験を試みた。

2. 試験地設定

(1) I 令級林分

ア. 設定

昭和60年度

イ. 場所

宮崎県東諸県郡高岡町埴尻国有林5ㄥ₈林小班内

去川国有林54ㄥ

ウ. 面積

5ㄥ₈林小班内0.24ㄥ

54ㄥ林小班内0.58ㄥ

エ. 地況

5ㄥ₈林小班

標高 400 方位 SE 傾斜 急 土壌型 BC

54ㄥ林小班

標高 400 方位 S 傾斜 急 土壌型 BC

オ. 林況

5ㄥ₈林小班

広葉樹天然更新, 1年生

前生樹, 広葉樹49年生 ㄥ当り材積270m³

54ㄥ林小班

広葉樹天然更新1年生

前生樹, 広葉樹55年生 ㄥ当り材積250m³

カ. 設定方法

5ㄥ₈林小班, 試験区 2プロット(0.03ㄥと0.09ㄥ), 対照区2プロット(0.13ㄥと0.16ㄥ)の4プロットを設定した。

54ㄥ林小班, 試験区 2プロット(0.13ㄥと0.16ㄥ), 対照区2プロット(0.15ㄥと0.14ㄥ)の4プロットを設定した。

カン、シイ、タブ、サクラ等の有用広葉樹のぼうが枝を1株当り1-2本を残して芽かきを行う。

天然下種による稚樹の刈出しを行う。

記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する
2. 状況写真は別冊整理する。

試験経過記録(その2)

3. 調査事項

(1) 芽かき後における生立本数

表-1

林小班	プロット	プロット内						㍔当り		
		カン類	シイ	タブ	イヌマキ	その他広	計	径級	樹高	本数
54c	1 試験区 面積 0.09㍔	本	本	本	本	本	本	m	m	本
	2 対照区 面積 0.09㍔									
	3 試験区 面積 0.03㍔	14	38	25	4	25	106	23	1.55	3,533
	4 対照区 面積 0.03㍔									
54d	1 対照区 面積 0.15㍔									
	2 試験区 面積 0.13㍔	13	76	46		126	261	18	1.58	2,008
	3 対照区 面積 0.14㍔									
	4 試験区 面積 0.16㍔	39	217	20		22	298	25	1.94	1,863

(3) 芽かき及び稚樹の刈出しに要した作業工程と経費

表-3

林小班	プロット	芽かき				稚樹刈出			
		プロット		㍔当り		プロット		㍔当り	
		人工数	経費	工程	経費	人工数	経費	工程	経費
54c	1 試験区 面積 0.09㍔	0.625	7,500	5.2	62,500	0.5	6,400	4.2	53,300
	3 試験区 面積 0.03㍔								
54d	2 試験区 面積 0.13㍔	0.5	6,000	1.7	20,700	1.5	19,200	5.2	66,200
	4 試験区 面積 0.16㍔								

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

試験経過記録(その2)

自主

高岡 営林署

(様式4)

生長量調査

林小班	面積	根 元 径					樹 高				
		61年度	62年度	63年度	生長量		61年度	62年度	63年度	生長量	
		cm	cm	cm	62年度	63年度	cm	cm	cm	62年度	63年度
518	0.09	22	29	37	7	8	153	194	242	41	48
	0.03	23	30	38	7	8	155	202	247	47	45
54は	0.13	18	26	39	8	13	158	223	297	65	74
	0.16	25	37	52	12	15	194	287	374	93	87

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

状 況 写 真

区 分 自 主

高 岡 營 林 署

(様 式 6)



試 験 乙



試 験 乙
コ ン イ 牙 乙



対 照 乙

図-1 試験地位置図(51C₈林小班)

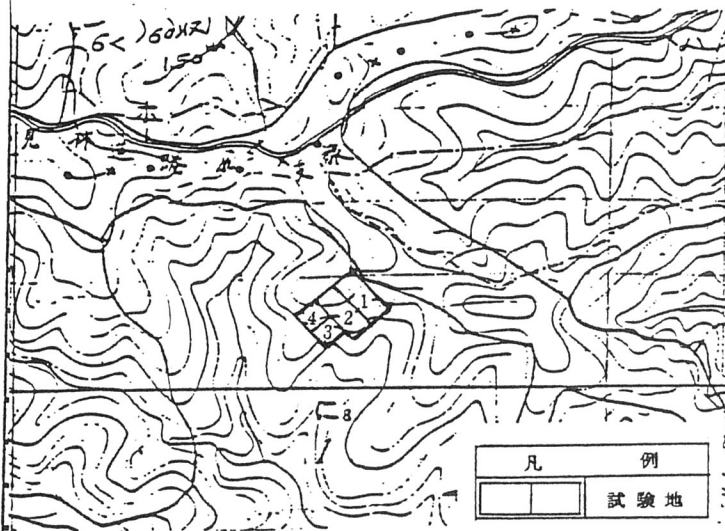


図-3 試験地位置図(54は林小班)

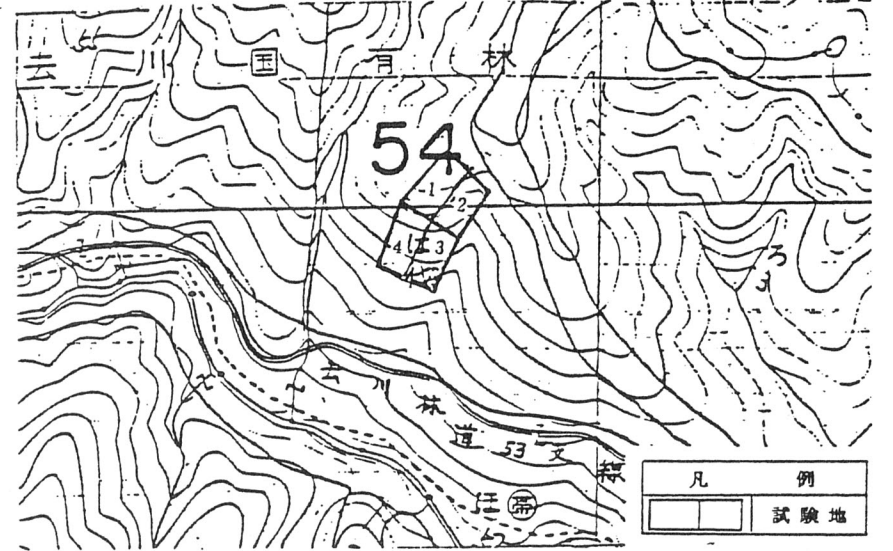


図-2 試験地設定図

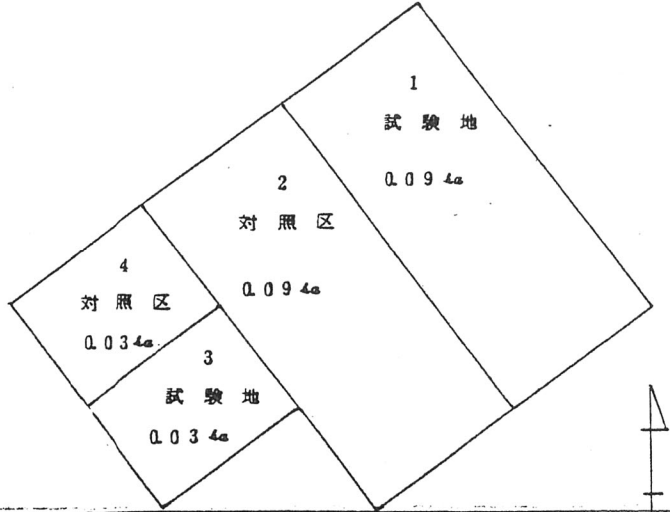
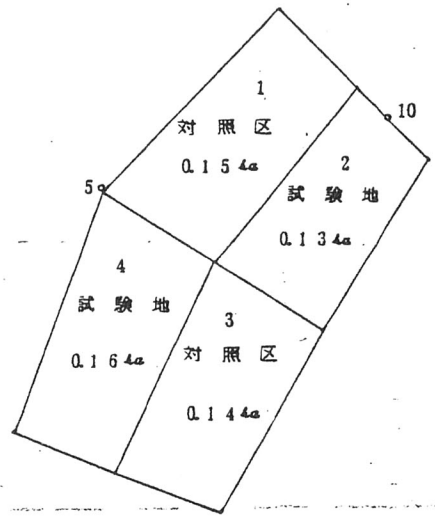


図-4 試験地設定図



記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。

課題	広葉樹天然林の人工補整施業法		(継続) 新規	担当	造林課	開発所	高岡
目的	広葉樹優良林分を造成するため、人工補整法の技術と投資効果を究明する。		指示・自主 自主	昭和60年 ~ 平成2年			
年度別実施経過	元年度 実施報告	2年度 実施計画		備考 (評価及び普及計画等)			
	不要樹種の刈払 生長量調査(試験区) 基取4名 117,216円 技術開発 臨時12名 (692,000円) 造林費 事業費(技術開発) _____ 千円	1 不要樹種の刈払と稚樹刈出 2 仕立本数の調整 3 生長量調査 事業費(技術開発) _____ 千円					

課題 広葉樹天然林の人工補整施業法

調査結果
芽かき試験地の生長量調査

林小班面積	根 元				生長量		
	61年度	62年度	63年度	元年度	62年度	63年度	元年度
0.09	22	29	37	42	7	8	5
0.03	23	30	38	43	7	8	5
0.13	18	26	39	41	3	13	2
0.16	25	37	52	56	12	15	4

林小班面積	樹 高				生長量		
	61年度	62年度	63年度	元年度	62年度	63年度	元年度
0.09	153	194	242	292	41	48	50
0.03	155	202	247	298	47	45	51
0.13	158	223	297	346	65	74	49
0.16	194	287	374	454	93	87	80

- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。